

No.2

打てば鳴る人。
ひと。
市議会活動報告

鹿屋市議會議員

吉岡 鳴人

よしおか 鳴人

ご挨拶

皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より何かとお心にかけていただき有難うございます。

日々、地方自治の進展と地域社会の発展のために尽力すべく、職責の重さを痛感するとともに身の引き締まる思いです。

初心を忘ることなく、「あせをかけ、あすをえがく」をモットーに研鑽と実績を積み、**やりがい**（産業振興）、**さえあい**（福祉充実）、**にぎわい**（地域活力）、**かたりあい**（未来創造）をめざして、真面目に一生懸命お役に立ってまいる所存です。

これまで数多くの課題、お困りごとなどに懸命に取り組んできました。まだまだ、目に見えてわかる実績が積み上がっていらないものの、たゆまざる努力でこれからも皆様の期待と信頼に応え精進してまいります。

引き続き地域の小さな声にも耳を傾けながら、一つ一つの地域課題の解決に向けて取り組んでまいります。

加えて、市民の皆さん誰もが心豊かに安心して暮らすことができる「**すべての人にやさしいまちづくり**」に向けた社会を実現できるよう、誠心誠意、一人でも多くの皆さんの負託に応え、その職務にあたってまいりたいと思っています。

最後に、今後とも一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、くれぐれもご自愛の上、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

吉岡 なると



定例会の一般質問

平成30年9月

1 農業の将来ビジョンについて

本市の農業を取り巻く環境は農業従事者の高齢化が進むとともに後継者不足や労働力不足に加え農地の集積、集約などの問題で農家戸数は年々減少の一途をたどっており、直近10年で約1500戸減少し、現在、4115戸となっている。

このような中、本市では、強い農業経営の確立などを目指して、平成27年に「かのや農業・農村戦略ビジョン」を策定している。中でも、「鹿屋市の食と農」を後押しする「かのや食・農商社」は、食品流通業界の川中・川下からの要望をワンストップで受け止め、地域全体での対応力を高めていく仕組みとなっているが、販売活動を結びつけるため、効率的な物流ネットワークの構築を含めた地域の物流拠点となる冷凍・冷蔵倉庫の物流施設を整備する考えはないか問う。

関連質問

- JAと融合したビジネスモデルについて



2 湯遊ランドあいらの整備について

市民の健康増進と福利厚生を図り、あわせて交流の拠点として本市の活性化、定住促進を目的に設立され、本市で唯一の複合温泉施設として整備された鹿屋市交流センター「湯遊ランドあいら」について、浴場設備やレストランの再配置を含めた衛生的かつ効率的な大規模改修をする考えはないかを問う。

関連質問

- 隣接する保健センターやパーゴルフ場跡地等の遊休資産の有効活用について
- 資金調達にふるさと納税を活用し、抜本的な対策とスピード感をもった取り組みについて

平成30年12月

1 新規就農者支援について

「かのやアグリ起業ファーム推進室」は「鹿屋市新規就農者就農支援事業」をはじめとする各種支援事業の推進により新規就農者を計画的に確保・育成し、農業の未来を支える人づくりを行っている。また、既存農家の育成や産地を将来的に維持・発展させる取り組みなど、大変重要な役割を果たす機能として位置づけられている。

そこで、農水省の来年度の予算概算要求のなかで、後継者や新規就農者の定着に向け、1ターンでの新規就農をめざす若者を後押しするためのモデル地区を全国10地区選定することとなっているが、本市が前向きに取り組む考えはないか。

関連質問

- 農業経営基盤の強化と促進に向け、機械化や新たな技術導入による生産性向上・労力軽減に向けた農業技術の研究と推進、および、高収益な農作物の導入や新たな輪作体系の確立について



2 防災対策の強化について

防災対策について、甚大な自然災害は防ぎようのない事態として捉えられていますが、肝属川水系始良川が氾濫危険水位を超えたことを踏まえ、被害を最小限に食い止める対策を講じること、加えて安心して暮らせるまちづくりに向け、集中豪雨による治水機能向上等に向けた整備対策についての施策を問う。

関連質問

- 公共の安全を保障する鹿屋市水防計画について
- ・樋門の遠隔化・無動力化の推進について
- ・昭和13年に洪水が発生した要因（堤防が崩れる
はてい
えっすい
破堤、堤防を越える越水氾濫）について



平成30年3月

1 財政の運営について

鹿屋市総合計画及び施策推進について、少子高齢化の進展に伴う社会保障費の増大や普通交付税の合併特例措置が2020年度に終了し、財政運営は一層、厳しさを増してくると想定されるが、財源確保など、将来の財政見込みをどのように捉えているかを問う。



2 財源の確保について

持続可能な財政運営を推進するなかで、自主財源を確保することは、自治体の行政活動の自由度や安定度を図るとともに地域の経済力を高めたり、市民生活の豊かさを実感できる手段として有用である。そこで、自治体の問題解決に資する自治体自らのプロジェクトとして、ガバメントクラウドファンディングを活用する考えはないか問う。



令和元年 6月

1 学校給食費の公会計化等について

学校給食費について、学校または学校給食センターが給食費を徴収・管理し、食材業者へ直接支払いする「私会計」としているが、本市の歳入・歳出予算に計上し管理する「公会計」方式を導入する考えはないか。

関連質問

- ・学校給食費の管理および滞納者の対応等に係る負担軽減を図るとともに保護者の利便性向上を図ることを目的に、児童手当からの学校給食費の徴収について
- ・国（文部科学省）のガイドライン（方針）、政策と本市の方向性の相違について



2 全国和牛能力共進会の強化について

第12回全国和牛能力共進会に向けて、「日本一和牛のふるさとかのや」というキャッチフレーズのもと、生産農家や関係機関等と連携し更なる品質向上と生産基盤確立に努め、さらには、和牛日本一の連覇を果たすため、具体的な取り組みについてどのように推進していくのか政策を問う。

関連質問

- ・本市独自の全国和牛能力共進会対策本部の設置について
- ・事故率防止策および畜産技師の人材育成、確保について



3 JA直売所の交通混雑解消について

J Aが運営する農畜産物直売所について本市、農業政策との連携やその具体的取り組みについて示されたい。また、今後、農畜産物等の販売、観光の拠点となることから交通混雑について、どのような対策を講じ、解決を図っていくのかを問う。

関連質問

- ・農業政策を含めた農商工連携および観光との連携について
- ・営農支援センターの方向性について



令和元年9月

1 SDGsについて

SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能な社会をめざし、地方創生の推進に寄与することが期待されている。そこで、本市の施策のすべてに目標を紐づけし、全庁をあげて推進する必要があるが、その目標を達成するため、最も重要な位置にあるといえる自治体の役割について示されたい。また、経済・社会・環境の三側面における新しい価値を創出して地域における自律的循環が見込める本市独自のモデル事業を形成する考えはないか。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

※SDGsとはサステナブル、デベロップメント、ゴールズの略称で、持続可能な開発目標という意味です。

SDGsは2015年9月に国連総会で採決され、持続可能かつ豊かで公正な社会を作り出していくために、すべての国と関係者が参加し向こう15年間、すなわち2030年までに達成すべき世界的な目標です。この中心にあるのが、17の分野であり、貧困の根絶や再生可能エネルギーの利用、生産的で、働きがいのある雇用の促進、持続可能なまちづくり、気候変動への対策、パートナーシップによる目標達成などとなっています。

2 さつまいも農家の負担軽減について

本市の基幹産業である「さつまいも」は近年、基腐病等により大幅に収穫が落ち込んでいる。さらに、農業用廃プラスチックの処理価格が大幅に引き上げられた。農家負担軽減を図る施策を問う。



3 選果場の整備について

農業都市かのやの再生へ向け、肝属中部地区畠地かんがい事業の通水を活用し、さつまいもとごぼうの輪作体系による農家所得向上を進めている。そこで、輪作体系をさらに進めるため、JAと連携して選果場の整備に取り組む考えはないか問う。



その他

平成30年3月定例会における意見書(発案)

(提出先:衆議院議長、参議院議長、農林水産大臣、鹿児島県知事)

●鹿屋市議会:全会一致にて可決

「豚コレラ」は家畜伝染病予防法において法定伝染病に指定されており、本病の発生予防及び蔓延防止には飼養衛生管理基準の遵守の徹底が重要とされています。

養豚農家は畜舎の消毒など自衛防疫の強化に取り組んでおり、本病の侵入に大きな不安を抱いているところであります。

このようななか、私ども鹿屋市議会としましても、「豚コレラ」対策の防疫体制の積極的な根絶対策を下記のとおり関係機関へ強く要望します。



1. 日本国内における豚コレラの発生に係る感染源と感染経路を早期に解明し、今後、再び、国内発生が出ないように適切で十二分な対応策を講じ、再発及び感染拡大の防止に全力で万全を尽くすこと。

記

2. 国内において豚コレラの発生が確認された場合は、発生地のみならず、豚の生産・飼育を行う畜産農家を擁する自治体に対して自衛防疫体制を堅持できる予算を確保すること。特に本市を中心とした鹿児島県大隅半島は日本の食料基地であるという認識を持たれるとともに地域の実情に鑑み、予算についての配慮と拡充及び強化すること。



各組織員

- ・自由民主党
- 鹿児島県連青年局員
- ・肝属中部地区
- 畠地かんかい事業推進協議会員
- ・鹿屋工業高校工友会 幹事

地域とともに

- 吾平小学校PTA会長
- 美里吾平コミュニティ協議会員
- 姶良河川愛護会員
- 美里あいら宮下相撲保存会員
- 鹿児島県農業教育振興会員
- 鹿屋市スポーツ推進委員
- 鹿屋市消防団員

略歴

- ・出生地 鹿屋市吾平町
- ・特技 空手道（2段）
- ・昭和56年1月23日生まれ（39歳）
(西郷隆盛と一緒に誕生日)
- ・家族 妻、子2人
- ・鹿児島国際大学 経済学部卒
- ・座右の銘「敬天愛人」

職歴

- 平成30年度
- ・議会報委員会 委員
 - ・産業建設委員会 副委員長
 - ・鹿屋市スポーツ議員連盟 役員
- 令和元年度
- ・都市政策審議会 委員
 - ・議会運営委員会 委員
 - ・文教福祉委員会 副委員長
 - ・鹿屋市林業活性化議員連盟 役員



皆さまの
ご意見を
お待ちして
おります

〒893-1103
鹿屋市吾平町麓3621番地21
□ 090-3011-4318